

小4～

水の汚れを調べてみよう

数人グループ

3～4時間

水辺

川で遊ぼう、川の生き物を調べよう

■概要

身近な川についていろいろ調べる事により、川やその周りの環境について学ぶ。

■ねらい

生き物を捕まえるという遊びを通じて、川の中にはたくさんの生き物が生きていることに気付かせるとともに、身近な水環境について考える。

■準備物

- 網（目の細かいざるで代用可）
- バット（浅くて広い入れ物）
- バケツ
- ルーペ、むしめがね
- ピンセット（絵筆で代用可）
- 温度計
- 地図
- カメラ
- 筆記用具
- 調査用紙
- バインダー

■進め方

活動	時間	内 容	注意事項
調査	15 分	・ 調査地点の川へ行き、調査用紙に川の流れ（速い、遅い）を書き、さらに川の周囲、川岸、川底、水の様子及び気づいたことを記入する。	
	30 分	・ 今日の水温はどれぐらいかを予想させ、調査用紙に書き込む。 ・ 実際に手や足で川の水に触れ、手や足で感じた水温を予想して、調査用紙に書き込む。 ・ 水辺の水草の中や水がよく流れているところ、水がたまって流れが少ないところ等、いろいろな場所の川の水温を調べる。 ・ 温度計で実際に測定結果と予想した水温の違い、人間の感覚の違いなどについて意見交換をする。	・ 水温測定で温度計を沈める時には踏まないように監視しておくこと。 ・ 川に入るときには、必ず履物を履くこと。
	120 分	・ 網とバケツで川の中の生き物を採集する。できるだけいろいろな場所で採集するようにする。 ・ どのような生き物を採集したのか、バケツの中をバットに出して観察する。 ・ 採集した生き物は写真を取るかスケッチをして記録する。 ・ 採集した生き物は、何を食べているかを考える。 ・ みんなで川の中の生き物にはどんなものがいたか、もっとたくさんの生き物がすめるようにするにはどうすればいいのか、水温や川の周りの環境との関係などについて話し合う。	・ 膝よりも深いところには入らないようにする。 ・ 記録後は生き物を川に返す。
(授業の場合 45 分×4)			

- 注意：
- ・ 増水や濁水流下時には実施しない。
 - ・ 水の中はもちろん、水辺は事故が起こりやすいため、事前の下見による危険な場所の確認、緊急連絡先等の確認を必ず行う。
 - ・ 子どもだけでは実施させない。
 - ・ 活動範囲を決め、上流・下流両側にスタッフを配置すること。
 - ・ スタッフ数はできるだけ多い方がいい。安全管理に保護者等の参加も可。